



佐川 秋夫 議員

ウェルピア伊予の施設の有効利用を

問

今後のウェルピア伊予への集客増進や市民の健康・福祉のため、また、いこいの場の確保のために、焼却場跡地を今一度整地される考えは。

答 中村市長

現在、民間の宅地開発が行われている土地には、テニスコート4面、多目的グラウンド1面、ゲートボール場2面及び緑地が整備されていた。多目的グラウンドでは、グラウンドゴルフやフットサル、地域の催し物などが行われていたが、現在こ

れらは、いこいの広場で行われており、広さと利用状況から見ても、手狭な状態である。

昨年焼却施設の解体とあわせて整備した土地は、多目的利用を目的に確保したが、正規のグラウンドゴルフのできる広さではなく、フットサルが行える程度である。

要望の競技が行える施設となると、グラウンドの拡張及び防球フェンス等の整備が必要となる。

現在の利用状況、整備後の稼働率等について指定管理者の意見を聞き、利用者の増大、増収が見



ウェルピア伊予の広場

込めるようであれば、施設改修の検討を行いたい。

生ごみステーションへの不燃物収集を

問

- ① 生ごみステーションの不燃物収集は、申請に不備があり許可しないのか。
- ② 地域の要望をどのように把握しているのか。
- ③ 今後収集が可能になるのか。

答 市民生活課長

① 鳥ノ木駅踏切近くでは、不燃ごみの収集日には、可燃ごみのステーションにおいて、プラごみの収集を行っており、プラごみと不燃ごみを同時に収集できるスペースが必要である。また、JR踏切と市道が複雑に交差して、更に朝夕の交通量が多く、車の離合で混雑している。そういったことから、この場所に不燃ごみのスペースを安全

に確保するのが困難と考えている。

- ② 地元区長、広報委員等の方々に分散設置も視野に入れ、新たなステーション候補地の選定を依頼している。また、利用している方々が、管理方法や設置場所について話し合うことが一番重要であると考えている。
- ③ 早急に解決できるように地元と協議を重ねていきたい。

組織機構並びに業務のあり方の見直しは

問

- ① 現在、あじの郷づくり構想の中で、観光政策等との役割分担は。
- ② 観光行政を強化するのであれば、組織の一部再編が必要ではないか。
- ③ 県下各市町で、観光係設置の実態は。

答 総務部長

① まちづくり創造課は、企画部門に加え「あじの

郷」づくり事業など、まちづくりや地域活性化を目標とした具体的な活動や実践などを行う組織として新設した。本市の観光行政の主たる任務は、これまでどおり産業経済課が担当するが、「あじの郷」づくり、まちづくりの延長には当然、観光という視点も入ってくる。

両者が十分な情報の共有と連携を図りながら、両輪で伊予市の観光行政を推進していきたい。

- ② 現時点では、条例規定どおり運用する考えで、十分な連携と情報共有をさらに徹底していきたい。
- ③ 県下11市中、本市と東温市以外の9市は、産業経済部門の中に観光と名の付く課が組織され、町では、久万高原町、愛南町にも観光と名の付く課がある。

その他の質問事項

・鳥獣被害緊急対策事業の積極活用を